

西大和つうしん

2015年 6月号
No.396



前方の山はP1242
5月17日例会山行：白鬚岳

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第396号(2015年6月号)

【目次】

6 月度山行計画	1
6 月度・7 月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・登山講習 《4月12日》 六甲の山 蓬萊峡(藤本)	5
・例会山行 《4月19日》 宇陀の山 仏隆寺(高橋)	6
・訓練山行 《4月26日》 比良の山 蓬萊山(亀井)	7
・自主山行 《4月29日》 布引山地 大洞山(的場)	8
・自主山行 《4月30日~5月3日》 上信越の山 火打山・妙高山(藤本)	9
・自主山行 《5月3日~5月6日》 北アルプス 立山三山(杉川)	12
・自主山行 《5月3日》 鈴鹿の山 綿向山(橋本)	13
・自主山行 《5月13日》 金剛山地 葛城山(阪口)	14
・例会山行 《5月17日》 台行の山 白鬚岳(玉越)	14
事故対応講習会(県連)	16
室内例会だより(4/22)	17
運営委員会だより(5/9)	19

6 月度 例会 山行 計画

クリーンハイク(清掃登山)

6月7日(日) 公開山行 葛城・金剛 《金剛山》(郵便道)

[L: 辻 / 緊連:]

【集 合】 JR御所駅前広場 AM 8:40 (王寺駅 8:05 発和歌山行き)

又は上牧町役場駐車場 AM 8:15

又は高天彦神社駐車場 AM 9:00 (車利用の場合)

【コース】 [郵便道] 高天彦神社駐車場 一の鳥居 山頂広場

《昼食後往路下山》

【下山予定】 高天彦神社駐車場(14:30頃) / JR御所駅(15:00頃)

少雨決行(荒天の場合は6/14に順延)

~アルペン気分と南北朝の古刹を楽しみましょう~

6月21日(日): 例会山行1 丹波の山《白鬚岳~松尾山》

[L: 村田 / 緊連:]

【集 合】 上牧町役場 P 7:00

【コース】 住山 白鬚岳案内板 ~ (40) ~ 登山口 ~ (60) ~ 白鬚岳

~ (50) ~ 松尾山 ~ (60) ~ 住山 白鬚岳案内板

夏山訓練山行 第1回目

6月28日(日) 例会山行2 大峰の山《釈迦岳～孔雀岳》

〔L：島崎／緊連： 〕

【集 合】上牧役場P AM6:00

【コース】旭登山口 8:40～古田の森 9:50～水場 10:45～釈迦岳

11:00-30～孔雀岳 13:00～釈迦岳 15:00～旭登山口

17:00～上牧P場 20:00 帰着予定

西大和山の会 カレンダー

6 月			7 月		
1	月		1	水	
2	火	県連理事会(県連事務所 19:30~)	2	木	
3	水		3	金	
4	木	県連ハイキングリーダー学校	4	土	
5	金		5	日	例会山行2 迷岳(藤井)
6	土		6	月	
7	日	クリーンハイク金剛山(辻) 県連ハイキングリーダー学校	7	火	県連理事会(県連事務所 19:30~)
8	月		8	水	
9	火		9	木	
10	水	自主山行・大台ヶ原(島崎)	10	金	
11	木		11	土	
12	金		12	日	
13	土		13	月	
14	日		14	火	
15	月		15	水	
16	火		16	木	
17	水	『西大和つうしん』7月号原稿締切	17	金	17~19 例会21 鳳凰三山(藤本)
18	木		18	土	
19	金		19	日	例会山行2 伊吹山(辻)
20	土	自然保護セミナー	20	月	
21	日	例会山行1 丹波白髪岳(村田)	21	火	
22	月		22	水	『西大和つうしん』8月号原稿締切
23	火		23	木	
24	水	室内例会(事務所 19:30)	24	金	
25	木	県連ハイキングリーダー学校	25	土	
26	金		26	日	
27	土		27	月	
28	日	例会山行2 釈迦岳(島崎) 県連ハイキングリーダー学校	28	火	
29	月		29	水	室内例会(事務所 19:30)
30	火		30	木	7/30-8/3 例会山行1
			31	金	北ア<表銀座>(藤井)

山行・行事等参加メモ

入会順		5/27 室内例会	6/7 クリーン 月	6/21 白髪 岳	6/28 釈迦 岳					
1	(窪田)									
2	都築									
3	藤井									
4	(石田)									
5	多賀									
6	田中悦			車						
7	島崎			車	車					
8	田中初									
9	村田									
10	林				車					
11	辻									
12	勝尾									
13	藤本									
14	杉村									
15	高橋									
16	玉越									
17	的場									
18	杉川									
19	阪口									
20	橋本									
21	今井									
22	亀高			車						
23	松浪									
24	亀井									
25	船江									
26	野路									
27	竹川									
	合計									

県連教育部主催
初級アルパイン登山講習会

六甲の山：《蓬莱峡》

【日 程】4月12日(日)

【参加者】L 中武(奈良労山)・藤本・杉川・今井・山田(こぶし)(計5名)

初級アルパイン登山講習会とは、ハイキングリーダー学校(登山学校)とは別に、さらなる技術的なステップアップをめざす県連傘下の会員を対象として、今年度より新設された単発の講習会で、今回はその一回目。季節柄、春山登山(残雪期)を想定して、アイゼン・ピッケルを使用しての登下降をさまざまな状況に応じて実践するという内容であった。



蓬莱峡の屏風岩とは反対側、砂礫の山を雪山に見立て、まずは空身で雪面に靴底をフラットに接する歩行方法から練習は始まる。斜登下降、トラヴァースとひととおりこなすと、こんどはアイゼンの前爪を蹴り込んでの登下降練習。そのあと、やや高度のある狭いルートをピッケルでバランスをとりながらトラヴァースする練習。ピッケルではなくつつい手を斜面についてしまう私に、「まあ慣れるしかありませんね。」と優しくも呆れ顔の先生。・・・。

しばし休憩のあと、今度はザックを背負っての訓練。ザックは当然 20kg の歩荷を要求されるので、あたりに転がっていた岩をザックに入れると、我が脚に係る総重量はいっぺんに 110kg を越える。そんな状況でやや斜度のある岩場風のルートを登る。それなりに足場が穿たれていて、一見何とかなりそうに見えたので、最初はブルージックで登ろうとするが、手をかけるポイントが乏しく、100kg 越えのわが身はどうしても持ちあがらない。結局はロープにつかまりながらなんとか攀じ登るというなんとも不格好な結果となった。技術の習得もさることながら、やはり体重の軽減は何をおいても急務のようだ。



最後は急な斜面をアイゼンの爪を利かせて下降する練習。急な雪面の下降を想定しての訓練である。怖さのあまりどうしても腰が後ろに引けてしまいそうになるのを、思いっきり鉛直方向に腰を落として、太腿の筋肉で支えつつ、少しずつ下る・・・もつとも斜度のある部分で停止することが課題とされたが、結局最後まで合格点はもらえなかった。これからも精進するしかあるまい。

今回の参加メンバーは、全員 Team Y2 のメンバーであったため、結果的に5月のY2 春山山行(火打山~妙高山&立山三山)の事前トレーニングとなったが、さてその成果の程や如何に？ (藤本)

例会山行 1

宇陀の山：《仏隆寺～室生寺》

【日 程】4月19日(日)小雨のち曇

【参加者】L藤井・S L窪田・亀高・杉村・高橋(5名)

【コース仏】高井バス停(8:25)～仏隆寺(8:55)～唐戸峠(9:30)～腰折地蔵(10:15)～西光寺(10:30)～室生寺(10:55)～室生公園(昼食)(11:10/50)～門森峠(12:20)～大野寺(13:40)～室生口大野駅(13:50)

本日のコースは前半は室生古道を女人高野の室生寺まで歩き、後半は東海自然歩道を磨崖仏の大野寺まで歩く15kmのコースである。

榛原駅を8時過ぎの曾爾村行きバスで高井バス停まで行く。降水確率が50%で雨を心配したが小雨がパラつく程度でザックカバーのみで出発。バス停(標高350m)から道標に従って田圃横の舗装道路をのんびりと登っていくと田植え準備をした棚田が現れてやがて仏隆寺に着く。石段横の樹齢900年の桜は盛りを過ぎていた。参拝を済ませ寺横の杉や桧が植林された山道に入る。30分程で役行者の祠や休憩小屋のある



本日のピーク唐戸峠(標高665m)に到着し小休憩ののち出発。ここからは舗装された緩やかな下り道が室生集落まで続く。10分程で水が緑色に見え神秘的な雰囲気漂わせるカトラ池に着く。さらに下っていくと腰痛にご利益があるという腰折地蔵に到着。芸術の森、西光寺を過ぎると眼下に四方を山に囲まれた室生の里が広がり山肌 畑 民家の庭には花桃 芍薬 桜 草花など色んな花が咲いた美しい景色であった。室生寺に参拝後、花に囲まれた室生公園あさぎりの里で昼食タイムにした。

昼食後、東海自然歩道を大野寺に向け出発。いきなりの急登で門森峠までの30分は食後の体には大変堪えた。門森峠からは下りとなったが、苔むした濡れた石畳の道が1時間ほど続き滑らなように注意をしながら慎重に下りた。やがて車道に合流し暫く行くと宇陀川の30mの大岩壁に彫られた磨崖仏が見えだしやがて大野寺に到着。小休憩ののち本日の最終点室生口大野駅に到着した。

仏隆寺の有名な桜は盛りを過ぎていたが道中の花々に癒され、室生古道・東海自然歩道と二つの古道をのんびりと歩いたハイキング的な楽しい山行でした。臨時代理のリーダーさんお世話になりました。皆さんお疲れさまでした。少人数のパーティは全員の方々と話せて 時にはいいものですネ。(高橋)

県連登山学校（ハイキングリーダー学校）訓練山行 比良の山：《蓬莱山》

【日 程】4月26日（日）晴れ

【参加者】L橋本・亀井・今井・杉川 / 中武（奈良労山：講師）（計5名）

【コース】堅田駅（8：50）～登山口（11：25）～アラキ峠（12：35/13：00）
～折立山（13：10）～権現山（13：55/14：30）～小女郎峠（15：20）
～小女郎池（15：27/15：55）～蓬莱山（16：25）ゴンドラ発（17：00）
～志賀駅（18：40）

登山学校山行初回は、リーダーの役割との課題で行き先は蓬莱山と決定。

平バス停下車後、早速講話有り。その後地図とコンパスを手に現在地確定。登山届を出して出発と思いきや、登山道崩落との想定で緊急連絡先に連絡してルート変更。林道を少し登ると、新設の市企業局配水池、これを回り込むと分岐。堰堤の横から道を探りながら歩く。倒木の有る樹林帯を登っていくと、木々の間から少し空が見えたので峠も近いことや、谷の曲がり具合等教わりながらアラキ峠へ到着。現状確認をして昼食とする。

その後目前の折立山ピストン。折立山から権現山迄の登頂時間測定方法を教わる。樹林帯を権現山目指して50分弱で到着。権現山から霊仙山の標高差250m弱その先急坂・・・と眺めているとヘルメットにピッケルと重装備の訓練山行の人達が下って行った。我々は未だ登り道。でも前方には蓬莱山と琵琶湖も綺麗に見え、心地よい風が頭を冷やしてくれる。ガレ場を過ぎると小女郎峠。朝の変更では、このブッシュと残雪の中を下る予定だったが、まずは孝女郎伝説の小女郎ヶ池をピストン。雄大な蓬莱山と琵琶湖パレイを眺めつつ30分程で蓬莱山頂到着。ここからは武奈ヶ岳が綺麗に見えた。打見山を経て最終のロープウェイで絶景の下山。

山麓駅前の八重桜も満開であったが残念ながら最終バスが出た後で地図を片手に歩くこととなる。さすが登山家バス道を避けて林の中を行くと木戸登山口の表示有り。直近で志賀駅に到着。

京都駅で自由参加の反省会。色々と教わり、景色も良く反省会も楽しく充実した一日でした。

（亀井）



自主山行

布引山地：《大洞山（985m）・尼ヶ岳（957m）》

【日 程】4月29日（水：祝）曇りのち晴れ

【参加者】L的場・野路・竹川

【コース】三多気の桜駐車場(8:40)～真福院(9:00)～登山口への分岐
 (9:15)～登山口(9:30)～大洞山雌岳(10:15)～大洞山雄岳
 (10:45)～倉骨峠(11:25)～尼ヶ岳(12:15/13:05)～倉骨峠
 (13:55)～見晴し台(14:45)～登山口への分岐(15:45)～真福
 院(15:55)～三多気の桜駐車場(16:10)

新会員の竹川さんが入会されて初めての山行。計画書には一応ルート経験ありで提出しているが、何十年も前のルート経験なので、初めてと変わらないかも？

「桜祭り」の終わった三多気の駐車場は、私たちの車を含め2台だけであった。準備をして出発。葉桜になった桜並木を過ぎると、鳥居のあるところに出てきた。ここは真福院というお寺であるが、寺なのに入口に鳥居がある変わったお寺である。鳥居をくぐると寺の門の前には樹齢何百年という大欅と2本の大きな杉がある。この寺の創建は古いらしく、平清盛も参拝したという言い伝えがあるらしい。

真福院を過ぎ、コンクリートの坂道、木の階段や石段をドンドン登っていく。分岐はいくつかあったが、標識がしっかりとあり迷うことはない。(しかし、大洞山から倉骨峠の間と、帰り真福院へ下りる道はちょっと分かりにくかった)雌岳までの登りは、傾斜40度ぐらいあり一番きつかった。大洞山(オオホラフキ山とは読みません。)頂上付近は少し木があるだけで見晴らしはよい。三角点もある。雌岳と雄岳の鞍部をガスが流れていく。方位盤がおかれていて、学能堂山、局ヶ岳、高見山が見えるはずだが・・・富士山の表示もあり、快晴時には見られるのだろう。少し休憩して雄岳へ。雌岳から見ると、下ってまた結構登らなければならないと思ったが、案外それほどの登りでもなく、すぐに到着する。頂上は雑木が少しあり、雌岳ほど視界は利かない。



急な下りを過ぎ、林道の横を通り、山道を過ぎると車道(倉骨峠)に出た。ここから登っている人もあるのだろうか、道の脇の駐車場には数台車が止まっている。

峠を過ぎ植林の中のアップダウンを超え一ノ峰、大タワを過ぎると、尼ヶ岳への登りが一般向きと健脚向きに分かれている。健

脚向きのほうが、あと0.3kmとなっているので、そちらのほうから登る。15分ほどで頂上に到着した。

頂上から西側半分はさえぎるものもなく、俱留尊山、古光山、メナード青山とほぼ全部見渡せる。帰りは、山すそを通っている苔生した石畳の東海自然歩道を歩き、途中の展望台から見えた青山高原の何本もの風車が印象的だった。(的場)

自主山行

上信越の山：《火打山 2,462m・妙高山(北峰)
2,446m》

【日 程】4月30日(木)夜発～5月3日(日)

【参加者】L 中武(奈良労山)・藤本・杉川(計3名)

【コース】

5月1日(金): 笹ヶ峰登山口(7:40)～黒谷橋(9:30)～十二曲がりの上部
(11:30)～富士見平(12:20)～高谷池(13:00/14:30)～火打山
(16:20/25)～高谷池(17:50)〔幕営〕

5月2日(土): 高谷池(8:00)～黒沢池ヒュッテ(8:35)～大倉乗越(9:35)～
妙高山北峰(13:30/14:10)～大倉乗越(16:20)～高谷池(17:45)
〔幕営〕

5月3日(日) 高谷池(8:25)～富士見平(9:00)～笹ヶ峰登山口(11:35)

Team Y2の2015年度春山山行Part Iは上信越の山。新潟県にまたがる雪深い山でのテント泊はさぞかし大変だろうと、いささか不安混じりの期待をもって臨んだ。

奈良を4月30日の22時ごろ出発、5月1日、登山口の笹ヶ峰に着いた時にはもう完全に夜は明けきっていた。寝不足の目をこすりながら、明るい白樺の林を歩きはじめる。黒沢橋で沢の右岸に渡るや、十二曲がりの急登、雪はある程度しまっていてアイゼンは必要ない。しばしのアルパイトで尾根に到達。「これからは楽だ」と思っていたのにここで思わぬ伏兵が。稜線の一部雪庇が残っていて、それを避けるため北西側急斜面のトラヴァースを余儀なくされたのだ。今回はまだ登りなのでなんとかこなしたが、帰りのことを思うと、心のなかにずっしりと鉛が沈んだ。



大嫌いなトラヴァースルートを抜けたあとは、しばらく登って富士見平。さすがに富士山は見えなかったが、ゆく手には火打山、ふり返れば黒姫、その背後に後立山の名峰がそびえる絶景。気持ちが晴れたのか、その後の黒沢岳西面の長いトラヴァースはさほど気にならずに通過、ほどなく今回の幕営地、高谷池に到着した。

早速テントを設営、ただし、全く風のない見事な好天ということで、防風用のブロックは不要と判断、トイレはヒュッテの設備が使えるので、キジ場作りもなし、という、なんとも楽ちんな設営作業であった。

ややあって、少し身軽ないでたちで、本日のメイン、火打山へ向けて出発。天狗の庭をへて、ライチョウ平付近は夏道よりやや南を延々トラヴァース。朝からの疲労がすでにピークに達していて、脚が攣ることもしばしばだったが、ここまで来て引き返すわけにもいきまい。ほとんど惰性で歩き続ける。火打山への最後の登りは、



心が折れないようにと、足元だけを見て進む。でも、進んでいけばいつかは頂に着くものだ。山頂だけは雪がなく、傾きかけた日の光はまるで夏山のごとく・・・少し拍子抜けしたというのが正直なところだが、これでも立派な春の百名山。お決まりの記念撮影をして下山の途に就く。下りはほとんどグリセードで（ということだったが、重量オーバの私は滑るよりもはまってこける、立ってはこけるを繰り返しながら）それで

も登りよりもはるかに短い時間で下ることができた。半分眠りながら情性で登って、下って・・・でも、やっとテント場に帰りついて口にしたビールの美味しかったこと！私の人生でこんなにビールを旨いと思ったことはない。

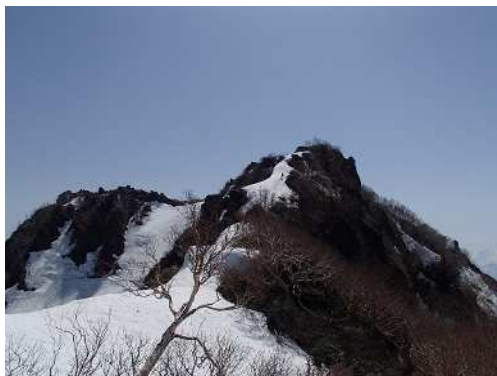
ヒュッテへ追加のビールを買いに行った際、明日登る妙高は、冬道と夏道の接続が不分明で、この日アタックしたパーティーは引返してきたという話を聞いた。心の中にもうひとつ重たい鉛が沈む。その晩、杉川さんの白湯鍋はとても美味だったが、心の緊張は解けず、食欲旺盛な二人を前にただただ疲れと不安を感じていた。

明けて5月2日も見事な快晴。朝食は昨夜私がほとんど手をつけなかった米を使っただけの雑炊。一晩寝て疲れはとれたのか、食欲は少し回復してきた。今日は妙高山。不安はあるが、この二人がいればなんとかなるだろう、と腹をくくって出発。



茶臼山を越えたあたりから、黒沢池へは自由に斜面を下る。閉まっている黒沢池ヒュッテの前で休憩の後、大倉乗越へは、夏道の西側斜面を直登して外輪山の長いピークのラインに進む。が、「それ以上行くな！」という中武氏の声に歩を止めれば、尾根筋と見えた目の前のラインは、延々南北に連なる雪庇であった。足元を見れば、大きなひびが・・・！結局夏道を探して北へ戻り、本来の大倉乗越で外輪山を越え

る。するとその先は長助池まで恐ろしい（と見えた）急下降。例によって大嫌いな雪面急降下（大嫌いが多すぎる！）は、開き直って後ろ向き。そこでやたら時間を食う。案の定、「この調子ではまあ妙高ピーク登頂は無理かな？」と中武氏。「でも、もう少しルートを覗きにだけ行ってみましょう」という言葉に、心の鉛が解け始めたのか、それからはむしろ元気が出てきた・・・（諦めてもいいんだ！と思うと元気が出るのも変な話だが、それだけ私の不安はいつも限りなく大きい！）



我々はこのあと、長助池分岐から妙高山北峰へ向かう夏道の少し南側の雪渓を登っていったのだが、その時点では正確な位置を把握していなかった。すでにトレースはなくなっていた。我々は北峰と南峰の間を詰めているつもりだった。しかし、我々が北峰と思っていたのは、名もなき岩稜の小ピーク、南峰と思っていたのが実は北峰だったのだ。それはさておき、我々が詰めていた雪渓はやがて薄くなり、低



木に邪魔されて少しずつ北側へトラヴァースせざるを得なくなっていた。しばらくこうして苦労して進んでいたのだが、雪がほぼ消えたあたりで、不意に登山道と思われる踏み跡に遭遇する。この道は南下して南峰(と思っていたが、実は北峰)に向かっていった。すでに北峰(と思っていた岩稜)はすぐそこだったので、我々は二手に分かれ、杉川さんは岩稜の方に向かい、中武氏と私はその夏道を辿った。この岩稜が北峰でないことを確認した杉川さんは再び雪庇の現れた危なっか

しい尾根筋を辿ってなんとか合流、そのあと一箇所再び雪庇を避けて西斜面をトラヴァースして、ようやく山頂に到着、同時にそれが北峰であることが判明した。なお、北峰に至る雪面にトレースはなかった。このところ数日で、山頂に到達したのは我々だけということのようだ。

ほぼあきらめていた妙高の山頂を踏んで満足、記念撮影を済ませてすぐに下山、下りトラヴァースは少し緊張したが、なんとかクリア、そのあとは夏道を行けるところまで下り(後半は大きく崩落していてかなり苦労した) やっと雪渓に戻るや、まさに水を得た魚(僕以外の二人ですが・・・)！大倉乗越の登り返しはちょっとしんどかったものの、とにかく下りは滑って、転んで、速い速い……。妙高山から帰ったテント場で飲んだビールは、人生で二番目に旨かった。一方、私が担当した夕食の洋風鍋。相変わらずお二人は旺盛な食欲を見せたが、私の状況は昨日と変わらなかった。



翌朝も晴れ。テントを撤収し下山にかかる。往路の時から心の鉛であった下りのトラヴァースはさすがに時間がかかった(僕だけ)。そして2日ぶりの笹ヶ峰登山口。3日間一度もアイゼンを使わずに二座登頂を果たしたことくらいは自分を褒めてもいいかな？でも課題は山ほど。さあどうするか。でもまずはビールで祝杯(駐車場で！)。

温泉で3日間の汗を流してから駅へと向かう。田んぼのど真ん中に出現したステーション「上越妙高」駅で二人と別れる。彼らはこのあとさらに3日間、立山登山へと向かうのだ。初めての北陸新幹線。その車窓からみた後立山、そして裏劔が、これまで以上に険しく思えたのは気のせいかな？

(藤本)

自主山行 北アルプス：《立山三山》

【日 程】2015年5月3日(日)～6日(水)

【参加者】L中武(奈良労山)・杉川・山田(こぶし) <TeamY2>

5月3日 天候 晴れ

この日は妙高からの下山日。藤本さんを北陸新幹線の駅まで送り立山へ向かう。立山山麓家族旅行村へテントを張り、明日からの山行へ備える。

5月4日 天候 雨

【コース】室堂(9:00)雷鳥沢キャンプ場(9:40)

今日は悪天が予想される為、予定を早め立山を出発する。

GW まったただ中の立山。黒部アルペンルートの観光客にまじりケーブル、バスに乗る。何時間待ちかと思いきや雨の為に待ち時間は30分位。ラッキーでした。後は雷鳥沢まで雨が降らない事を祈る。室堂到着。雨がパラパラ降り出す。残念。まあ、今日も雷鳥沢にテントを張るだけなのでのんびりと向かう。ていうかザックが重くてのんびりなのですが。そして雷鳥沢到着。

雨の中のテント張りが始まる！テントを張り、ブロックを重ね、夜の悪天に備える。しかし寒い！それでもしっかりと風対策をしておかないと困るので急いで設営をする。

雨がきつくなるとテントも古いのと、結露によってテント内にも浸水！いやはやなかなか厳しいテント泊になりました。

15時くらいにこぶしの山田さんが合流。明日の打ち合わせをして晩飯の用意をして就寝。ちなみにこぶしの山田さんは小屋泊です。

5月5日 天候晴れ

【コース】雷鳥沢(7:20)一ノ越(9:30～10:00)雄山(11:10～12:30)一ノ越(13:30)雷鳥沢(14:30)

この日は晴れ予定。夜の雨でテントはバリバリに凍っている。

外に出ると風よけのブロックがやせ細っている。この標高で雨のテント泊をするとうなるかと体感しました。たしかにいままで一番寒いと感じた朝でした。支度を整え出発。

直接一ノ越までの直登ルートをとる。さすがに下はガチガチ。

しかしクランポンの感触が心地よく気持ちがいい。上空も少し雲が残っているが昼には青空になるだろうと思登る。

一ノ越に到着。そこからは美しい展望が広がる。少し休憩して雄山まで登る。今年は雪が少ないので一ノ越から雄山までは夏道状態。雄山からは素晴らしい眺望が広がる。二日前にいた妙高、火打、目前に剣、後立山、槍様も見える、雄大な薬師、奥には笠ヶ岳、360度の大展望。のんびりと腰を落ち着け山座同定。すばらしい時間を過ごす。剣を眺めつつ中武せんせーより色々話を聞く。残雪の剣岳の美し

さに心奪われる。今日は縦走せず引き返す事にして下山。早々に雷鳥沢へ到着。下山は早い！雪のテーブルを作りくつろぐ。ビールがうまい！後は自分のご褒美として雷鳥沢ヒュッテの風呂へ。いい風呂でした。風呂の窓から見える雪の立山三山。なかなか贅沢な風呂でした。

5月6日 天候晴れ

【コース仏】 雷鳥沢（7：30）室堂（8：40）

今日は下山日。5泊6日の最終日。テントを撤収して室堂へ。

富山にて寿司を食し帰路へつきました。長い旅でしたがいい勉強になった山行でした。反省点も多く、来年にむけて勉強していこうと思いました。

（杉川）

山行報告

自主山行 鈴鹿の山：《綿向山》

【日 程】 2015年5月3日（日）晴れのち曇り

【参加者】 L島崎・田中（悦）・高橋・田中（初）・竹川・橋本

【コース仏】 西明寺P場：（10：00）～3合目/あざみの小屋（10：56）～7合目/行者コバ（11：35）～綿向山（12：10/12：50）～水無山南峰（13：33）～ヒズミ谷出会小屋（15：30）

道路の状況で予定より1時間30分程遅れの登山口出発となる。

8合目当たりまでつづら折れになっている歩きやすい登山道を歩く。琵琶湖、三上山も眺め7合目の行者コバからは新緑のブナ林の中を気持ちよく歩くことが出来た。

しかし頂上直下には段差が大きい階段があり非常にしんどかった。登りきると鈴鹿山脈が一望でき、雨乞岳、鎌ヶ岳が正面に見える。

下りは、水無山を経て下るが初めから急坂。碎石した後なのか、すり鉢状になっている尾根道を通り、下山最終近くまで続く、狭い崩れ落ちそうな登山道を通り下る。ところどころロープが設置されておりそれを頼りにし慎重に歩いた。途中小さな石が落ちてきて一人に当たりそうになる。

つづら折りにしている道が多く、大きな石はないが落さないように気をつけ歩いた。

イワカガミの群生があちこちにあり、石楠花、ちごユリ、笹ユリも少し咲いており花も堪能できた山行となった。
（橋本）



自主山行

金剛・葛城：《葛城山 959,2M》

- 【日程】 2015年5月13日(水) 快晴
 【参加者】 L島崎 S L阪口 野路
 【コース仏】 青ガレ登山口(9:10)～葛城山頂(10:40)～昼食(11:05 / 50)～
 水越峠登山口(12:33)～太尾塞跡(14:00)～下山口(14:47)

昨日の台風一過、晴天のもと、水越峠トンネルを越えて、駐車。青ガレよりを登って行く、樹林帯をジグザクに登る、風が気持ちよく、カタクリのある斜面は新緑でツツジが咲き、良い景色である、山頂に到着。案外風が強い。展望はやや霞んでいる。燃え立つ様な赤いツツジの絨毯が目の前に展開している。只々、素晴らしいの一言につきる。回遊して、ツツジに囲まれて昼食。ゆっくりと時間をかけて休憩。それでも時間があるので、水越峠へ下って、カヤンボから太尾塞跡から下山する事になった。

水越峠からいやにカヤンボまでが長い。そのまま林道を登ってゆくと、下山する人がいたので、太尾塞跡コースを確認。道は間違いないが、突き当りT字路右との事であったが、かなり登った処が太尾塞跡であった。下山は先頭の人について行く形となり、かなり早く降りてしまった。(阪口)



例会山行 1

台高山系：白鬚岳 (1,378m)

- 【日程】 2015年 5月 17日(日) 晴れ
 【参加者】 L亀高、S L田中、島崎、藤井、多賀、林、辻、勝尾、玉越、的場、杉川、今井、竹川 以上 13名
 【コース仏】 東谷出合(7:45)～林道終点(7:55)～岩清水(8:25)
 ～神之谷分岐(9:20)～小白鬚岳(9:50)～P1242(10:30)～白鬚岳(11:10/55)～P1242(12:25)～小白鬚岳(12:55)～神之谷分岐(13:55)～岩清水(14:00)～林道終点(14:30)～東谷出合P(14:45)

晴天の日曜日。東谷出合の駐車スペースには我々の車だけだった。気温は肌寒い12度ほど。10分ほど先の林道終点からは沢沿いの登りとなる。もちろんヒール対策は万全だ。大きな滝があり、苔生した岩清水ではカエルが鳴く。ここからさらに九十九折りの急登が続く、大汗をかく。木の根や岩を掴んで登るような場所や、細いロープの張られた斜面をトラバースするところがあり慎重に行動する必要がある。

ようやく上がった神之谷分岐。風を感じる稜線歩きは、気持ちがいい。白鬚岳までは大小4つのピークを踏むのだが、それぞれの傾斜がきつく、高低差もあるのでしんどい。最初のピーク小白鬚岳は、広く展望が良いので休憩場所にうってつけた。ここで先に見えるのは、目指す白鬚岳ではない。小白鬚岳からさらに3つのピークを踏むと、新緑に彩られた白鬚岳が目の前に見える。年末に登った百合ヶ岳から見た鋭鋒は、「大和の槍」と呼ばれるだけあり、鋭く高くそびえる。

山頂は広くないが、日が当たり展望が良い。大普賢から台高山系、さらには遠く二上山まで見ることができた。この時気温は22度。ゆっくりと昼食を摂った。しっかり休憩した後、同じルートを下山する。下山とは言え、アップダウンを繰り返すハードなコース、筋肉疲労が蓄積する。落石しやすい斜面では、ちょっと足を滑らすだけで大きな事故につながる危険があり慎重に足を運んだ。実際の距離よりも非常に長く感じた。

同じルートをたどる行程ながら、変化に富んでいて飽きさせない。急斜面、トラバース、やせ尾根、落石など危険箇所もいくつかあり、慎重さが必要だ。リーダーの判断で、2班に分けて距離を保って行動したのが良かった。下山後は入之波温泉で汗を流し、さっぱりして帰路についた。
(玉越)



県連（登山者の為の事故対応講習会）

【日 程】2015年5月10日

【参加者】島崎・藤本・杉川・今井・橋本・亀井

今年是三ヶ年計画の二回目の講習。昨年よりの課題、有事を想定した山行、そしてビヴァーク体験。

午前は座学で午後からは実技。最初の座学ではリーダーシップとメンバーシップ、休息のとり方、など、さまざまな話を聞きました。リーダーとしての醍醐味、伝える事の大事さ、など非常に勉強になります。休息の取り方の実技では15分走った後に一本橋を歩く。走り終えてすぐに歩くグループと休憩して歩くグループに別れる。統計では休憩後歩くほうがバランスが悪くなる。やはり、休憩後は気をつけないと駄目なんだなと思いました。

後は崩壊地の通過にロープを使用する方法。これに関しては使えないロープを使用して事故するなら使わないほうがいいと解釈しました。使うならちゃんと勉強して、経験を積んでから使うべきと思います。ロープの技術はこれからもしっかり学んでいきたく思います。来年にむけて、これからも有事を想定した山行を考え、精進していこうとおもいます。
(杉川)

室内例会だより

【日 時】2015年4月22日(水) 19:30~20:30 事務所
【出席者】島崎、都築、辻、田中悦、田中初、林、杉村、藤本、藤井、高橋
玉越、的場、杉川、阪口、今井、亀高、亀井、船江、竹川、橋本

1. 山行案内

4月29日(水) 自主山行 伊賀富士 倶留尊高原(大洞山~尼ヶ岳) L 的場
4月30日(金)~5月3日(日) 自主山行 火打山~妙高山 県連登山学校終了生 L 藤本
5月3日(日)~5月6日(水) 自主山行 立山三山 " L 杉川
5月3日(日) 自主山行 鈴鹿の山(綿向山~水無山) L 島崎
5月10日(日) 例会山行1 登山者のため事故対応講習会 L 杉川
5月13日(水) 自主山行 金剛葛城山系(葛城山) L 島崎
5月17日(日) 例会山行1 台高の山(白髭岳) L 亀高
5月24日(日) 例会山行1 多紀アルプスから岩稜の山へ(丹波山) L 阪口
5月29日(金)~31日(日) 自主山行 大峰奥駈 Part (行者還~前鬼) L 藤本
9月17日(木)~20日(日) 自主山行 北アルプス(大キレット) L 的場

2. 山行報告

3月24日(火) 自主山行 大峰の山(扇形山) L 藤本 4名
3月29日(日) 自主山行 若狭の山青葉山(若狭富士) L 杉川
4名(他会1名含む)
4月4日(土) 自主山行 湖南の山(笹ヶ岳) L 的場 5名
4月12日(日) 公開山行 信貴生駒(大原山) L 勝尾 17名
(会員14名一般参加3名)

3. 連絡その他

・県連より

- 5月10日登山者のための事故対応講習会(3期連続講習の第2回目)
場所 生駒山麓公園
参加者必須提出レポート 平素より、有事を想定した山行の実施。
ビバークの体験。
ビバークについては、日程を考え取り組んでいく。
- 日本勤労者山岳連盟近畿ブロック主催・奈良/兵庫県主幹
「第36回搬出技術講習会」(ハイキングコース)
参加者 藤本、杉川
神戸セミナーハウスにて
- テント購入について
4~5人用 金額 90,936円
特別会計より45,000円使用し、残45,963円については今後テント使用者から1人1泊1,000円使用料として徴収する。
3月22日の室内例会にて決定した内容より変更。

4. 会費について

当会会員の高齢化に伴い事故が発生することが想定される。
遭難対策基金の積み立金を増やして行くことが今後必要と思われる。
会費を現状の 600 円から 700 円に改定し、差額を基金として積み立てる
事、又夫婦会員の会費も検討していく。
上記内容については会則の改正、遭難対策基金規則の見直し等必要な為次
年度の懸案とする。

5. 新入会員紹介

竹川詠子さんが入会されました。

(橋本)

運営委員会だより

[日 時] 2015年5月9日(土) 13:30~15:10

事務所

[出席者] 島崎・辻・的場・藤本・勝尾・今井・橋本

4月26日例会山行(鈴鹿・岩ヶ峰～釈迦岳)における転落事故について。

事故発生から病院収容までの経過報告。今回の救助方法の反省点又、今後の事故発生時の対応について意見交換される。5月16日(土)に事故現場確認山行を行う(島崎・藤本・今井3名)。今回の事故を会員が他人事とは思わず安全な登山が出来る様、各自自覚する事が一番大切であると再認識された。下記事項を今後実施していく事を決定する。

「山行管理者」の設置

「西大和山の会山行規定」にのっとり計画に無理がないか山行管理者にて確認する。

山行管理者 島崎(会長)・辻(副会長)

実施開始日 今期下期より 2015年10月1日

計画書提出先 2015年10月1日より

会長・緊急連絡先・事務局

事務局より山行管理者、会報担当者(的場)に送る

「山行計画規定」は10月より改定する。

どのような登山道でも事故が起こる可能性が潜んでいるので、各自が注意散漫になることのないよう心掛ける。(各自の自己管理)例会山行の参加人数が多い場合、班分けをしてリーダー、サブリーダー等が目の届くようにする。

「緊急連絡体制」の確認について

会員が周知徹底出来る様機会を設け確認していく。

山行報告について

室内例会の山行報告時リーダーが反省点(ヒアリハット等)を報告する。会員が共有し、より安全な山行が出来る様にしていく。

(橋本)

西大和つうしん

第396号(2015年6月号)

2015年5月27日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 的場喜義

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会

〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32

窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>